



投稿日時: 2013年12月10日 投稿者: kurukurupress

← 前へ 次へ →

編集

## 学園町の歴史がわかる写真展 開催中



自由学園に隣接している「しののめ寮」2階展示室でこじんまりとした規模ですが、学園町住民のモチヨリによる写真展がおこなわれていました。  
(一部資料あり)

学園町の名前となったのは、言うまでもなく自由学園によりますが、正式の名前となったのは1965年(昭和40年)だそうです、それまでは久留米村南沢でした。



自由学園移転に先立って、羽仁吉一・もと子夫妻が学園創設以前に創刊した「婦人之友」を基盤に、南沢に約10万坪の土地を求め、うち3万坪は学園に、7万坪が住宅地にあてられました。

1925年(大正14年)のことでした。

最寄り駅は、ひばりが丘駅ですが、1959年(昭和34年)4月までは「田無駅」という名前でした。



この年に完成した「ひばりが丘団地」にちなんでの変更でした。

西武鉄道からの「自由学園前」にしたいとの申し出を学園は断ったのだそうです。  
「駅という公共物を私することはできない」との創始者の見識を示すものです。

・・・以上は今回初めて見聞きしたエピソードでした。

私は、たまたまおられた寮長さんからいろいろなお話を聞きながら回ることができました。



この「しののめ寮」は、アメリカの世界的建築家フランク・ロイド・ライトに師事した遠藤新(らく)の設計です。先の市民レポート「自由学園めぐり」で書きました遠藤新(あらた)の次男です。

ライトの影響を受けた素晴らしい建築です。学園町内に遠藤親子の作品が5~6軒残っています。



せっかくのしののめ寮ですので、1階カフェラウンジでゆっくりされてはいかがでしょう？

ランチも楽しめますし、パン工房製品の販売もしていますよ。



なおこの写真展は来年2月2日まで行われています。

市民レポーター 球歩